

■ 編集委員

小谷 典弘 (編集委員長)

秋岡 祐子 海田 賢一 解良 恭一 片桐 岳信 金子 優子 周防 諭

長谷川幸清 堀江公仁子 町田 早苗 若山 俊隆 (五十音順)

■ 編集後記

本号の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年4月に編集委員長を拝命してから、早くも5ヶ月が経とうとしています。この間、学術雑誌の編集という責務の重さを日々実感しております。

昨今の報道によりますと、アメリカのトランプ大統領は学術研究に対して厳しい立場を取っているように見受けられます。実際、NASAなどの研究者が解雇されるなどの影響が出ているようです。これまでにアメリカを中心に回ってきた学術研究→科学の発展→経済発展のスキームに暗雲が立ち込めております。

そのような情勢の中、学術出版界も現在大きな変革期にあります。電子ジャーナル化の進展、オープンアクセスへの流れ、そして雑誌発行料の高騰など、様々な課題に直面しています。このような状況下でも、埼玉医科大学雑誌の発行を続けていくことができるのは、医学研究分野の成果を発信し、学内外の研究者が自由に議論できる場が重要であるとの本学関係者一同の強い思いに他なりません。

本号には、今回、症例報告2例を掲載しております。「周期性発熱と右股関節痛で発症した神経芽腫の1例」については、周期性発熱を呈し自己炎症性疾患が疑われたが、実際には神経芽腫であった症例です。主訴を基に鑑別診断を行う際には慎重さが求められることが示されております。「国内の医療機関で経験した小児のアルコール使用症の1例」は、小児の飲酒が継続的に続けられていた特殊な症例ではありますが、今後このようなケースが増加する可能性もあり、成人とは異なる小児のアルコール依存症の治療法の必要性についても言及されています。その他、医学会が毎年採択している国際学会参加支援グラントにおける参加報告や学術集会報告が投稿されております。また、医学研究センターの各部門から昨年度の活動について報告がありました。

投稿いただいた著者の皆様、査読をお引き受けくださった先生方、そして編集作業にご協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。特に査読者の方々には、お忙しい中、建設的なご指摘をいただき、雑誌の質向上に大きく貢献していただきました。

最後に、本学の研究活動のさらなる発展を願い、編集後記とさせていただきます。今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(小谷 典弘)

埼玉医科大学雑誌

<https://www.saitama-med.ac.jp/research/jsms/>

第52巻 第1号

編集責任者

小谷 典弘

令和7年8月16日 印刷

令和7年8月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

製作

レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町809番地の5 電話(082)844-7500 <https://letterpress.co.jp/>